

# 草加市倫理法人会(12月) モーニングセミナー報告

自分が変わる。  
会社が良くなる。  
不況に負けない。

## 十二月六日(木) 第八七九回

◇ 講師 小川 淳

埼玉県倫理法人会 副幹事長

◇ テーマ 「倫理実践と会社経営は正比例する」



昭和三十七年さいたま市で祖父が創業した老舗きもの店「おがわ屋」の長男として生まれる。創業百年の呉服店を三代目として受け継いだが駄目なワンマン経営で長年勤めていた。社員まで去ってしまった。そんな時、倫理法人会のモーニングセミナーに誘われ一大決心入会する。入会后、倫理指導で「商売は支払いが先」の指導を受け、即実践。手形での支払を現金払いに変え、「支払日が人生で一番楽しい日」と心して商売に励んだ結果、黒字経営にすることができた。会社経営として信用、責任、実践をしたか。理想だけを描くのでなく行動してぶつかり、苦から自分を見つけて歩くことが大事。「苦難は幸福の門」扉を開きながら実践している。

小見寺 孝子 記

## 十二月十一日(木) 第八八〇回

◇ 講師 松丸 靖 (一社) 倫理研究所 名誉研究員

◇ テーマ 「時は命なり」

「時は得難くして失いやすし」(淮南子)

昭和四十四年、夜型の生活をセミナーに出るべく早起き宣言した氏に、奥様は「何日続きますかね。」と言われたそうです。氏の奮起もさることながら奥様の優しさも感じられます。人生に苦しみはつきものだが、その原因は他でもない、己が心の裡にある己の心の歪みが苦しむ原因である。この世に「さようなら」するのが人生で、戻ることのない片道切符である。自分の人生を振り返って「これで良かった」と言いたい。学んだ事を実践。実践出さなければどんなに学んでも意味がない。人生八十年というが、二万九千二百二十日である。では残りの人生は何日であろうか。学びと実践を履行する、悔いのない人生を送るために。

宮澤 良一 記

## 十二月十八日(木) 第八八一回

◇ 講師 中嶋 秀高

東京都港区倫理法人会 相談役

◇ テーマ 「二代目経営者の心掛け」



大学卒業後、四年間他社で自動車販売の経験を積んだのち、父親の経営する、自動車総合ディーラー(株)ナカリンオートに入社。当然次期社長のポストを期待されての入社だった。そのプレッシャーと焦りから、借金を重ね、ヤミ金と言われるような業者からも借りてしまった。借金から追われるように家出。十二年間放浪の末、実家に戻る。縁があり倫理法人会に入会し、仕事に励み三年後父の跡をとり代表取締役に就任。二代目経営者となり感じたことは創業者の父の決断力の凄さである。経験値が違う、その違いを認識することが大切である。平成二十一年に「創業六十年社史」を作成した折、父にインタビュース、創業者の想いを初めて聞いた。会社において一番大事な事は経営理念である。いままで関わった方々に感謝を忘れず「本を大切に」それが父から継承する二代目経営者の一番の心掛けだと肝に銘じた。

木村 博行 記

## 十二月二十五日(木) 第八八二回

◇ 講師 平塚 正幸

草加市倫理法人会 相談役

◇ テーマ 「倫理経営」

平塚製菓は1901年に京都で京菓子を作り始めたのが創業。

戦前に東京に移転し、戦後はチョコレートの製造を開始した。当社は2011年に創業百周年を帝国ホテルにて祝うことが出来たが2001年の百周年の時は何もできないほどの危機だった。その後、河野武彦元会長の紹介で倫理法人会に入会し、会社が大きく変わった。会社に朝礼を取り入れると「はい」「ありがとう」を年間二千六百回も口に出すことになる。自然に社内が変わる。気持ちの良い返事とあいさつ、感謝の言葉が言える、人間力豊かな社員さんが会社のブランドになった。楽しい職場作りが一番。一にも二にも人の話をよく聞くことが大切。当社のビジョンである「お菓子を仲立ちとした愛溢れる平和な社会を築き上げる」ために。

池田 成希 記